

東洋・日本美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史特論Ⅰ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	前期 月曜日 3講時	
東洋・日本美術史特論Ⅱ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	前期 水曜日 3講時	
東洋・日本美術史特論Ⅲ	仏教説話画研究	2	高岸 聡美	前期集中 その他 連講	
東洋・日本美術史特論Ⅳ	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	後期 月曜日 3講時	
東洋・日本美術史特論Ⅴ	日本近世美術史	2	杉本 欣久	後期 水曜日 3講時	
東洋・日本美術史研究演習Ⅰ	美術史基礎資料読解	2	長岡 龍作	前期 水曜日 4講時	
東洋・日本美術史研究演習Ⅱ	日本絵画作品研究	2	杉本 欣久	後期 水曜日 4講時	

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM11308, 科目ナンバリング：LIH-ART601J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代の大仏造立を取り上げ、その意義を述べる。そして、その後は大仏造立が生み出した仏教思想との関わりから、以降の時代の美術とその意義を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり1 「日本美術史」の成立
3. 「日本美術史」のはじまり2 「日本美術史」の展開と相対化
4. 奈良時代の大仏とその世界1ー大仏造立の意義
5. 奈良時代の大仏とその世界2ー大仏と観音菩薩
6. 奈良時代の大仏とその世界3ー大仏と正倉院宝物
7. 盧遮那仏と釈迦如来ー『華嚴経』・『梵網経』の世界観と美術1
8. 善財童子と文殊・普賢菩薩ー『華嚴経』・『梵網経』の世界観と美術2
9. 鑑真と唐招提寺の仏像1ー不空羼索観音と薬師如来
10. 鑑真と唐招提寺の仏像2ー金堂の仏像
11. 平安初期の薬師如来像
12. 災禍と宗教美術ー奈良時代から平安時代へ
13. 平安初期の観音菩薩像
14. 空海と仏像1ー東寺の仏像
15. 空海と仏像2ー高野山の仏像

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13305, 科目ナンバリング：LIH-ART602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵
- 3回目 狩野派の系譜1(御用絵師・正信から元信へ)
- 4回目 狩野派の系譜2(永徳と桃山の大家)
- 5回目 狩野派の系譜3(狩野探幽と江戸狩野の確立)
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 英一蝶と英派の絵画
- 8回目 京の町絵師1(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 9回目 京の町絵師2(尾形光琳と乾山)
- 10回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 11回目 刀装具と鐔の意匠性
- 12回目 対外交易と長崎派
- 13回目 沈南蘋と南蘋派
- 14回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 15回目 京都の雪舟流

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：第1学期集中 単位数：2

担当教員：高岸 聡美

コード：LM98810, 科目ナンバリング：LIH-ART603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：仏教説話画研究

2. Course Title (授業題目)：Visual Narrative in The Buddhist Art of Medieval Japan

3. 授業の目的と概要： 仏典には、釈迦の伝記とも言うべき本生譚や仏伝、また、仏の教えを平易に説き明かす譬喩や因縁譚が豊富に含まれている。さらに、高僧伝、聖人伝、往生伝、墮地獄譚、発心譚、靈驗譚など、仏典から派生し、時に俗説をも包含した多彩な物語があり、これらを総称して仏教説話と呼ぶ。古代・中世の日本では、経典見返し絵、絵巻、掛幅などの形式で多様な仏教説話が絵画化された。日本絵画史は、仏典との結びつきを看過して語り得ない。

この授業では、特に、墮地獄、病、死、闘争、破戒といった仏教における負の表象が、どのような典拠に基づき、どう形成され、いかなる意味を有していたのかについて、図像学的に講じる。古い日本絵画に描かれた闇をのぞき込み、その深淵を見極めることで、過去を生きた人々が何に恐怖し、完全には克服することのできない闇といかにして対峙、または共生してきたかを解明することを目指す。その結果、美麗を極めて荘厳された仏像や仏画、壮麗なる寺院空間など、仏教美術における強烈な光の輪郭もまた鮮やかに浮かび上がってくるはずである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The Buddhist sutras contain an abundance of tales of the Buddha's original birth and biography, parables that explain the Buddha's teachings. In addition, there are a variety of tales derived from Buddhist scriptures, such as biographies of high priests and saints, stories of the attainment of rebirth in the Pure Land or descending into hell after death, religious awakening, and tales of spiritual experiences. They are called Buddhist Narratives. In ancient and medieval Japan, Buddhist Narratives were painted in a variety of forms, including frontispieces on sutras, picture scrolls, and hanging scrolls. The history of Japanese paintings cannot be told without overlooking its connection with Buddhist narratives.

This lecture features the Buddhist paintings of medieval Japan; particularly, it conducts iconographic examinations on how negative representations in Buddhism, such as descending to hell, diseases, death, conflicts, and the breaking of the precepts, were formed, on what were they based, and what they meant. This lecture clarifies what the Japanese ancestors were afraid of and how they confronted or co-existed with the darkness they could not completely overcome by exploring the darkness depicted in old Japanese paintings. As a result, the intense contours of light in Buddhist art, such as Buddha statues and paintings, or the magnificent temples created with the ultimate sense of majestic beauty, ought to vividly emerge.

5. 学習の到達目標：・仏教説話画と典拠テキストとの関係を理解する。

・図像学的な分析の基礎を学び、自ら考察できるようになる。

・仏教説話画を通じ、それが制作され受容された社会のありように関心を広げる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To understand the relationship between Buddhist Narrative Paintings and their source texts.

・To learn the basics of iconographic analysis and be able to practice these methods on your own research.

・Through Buddhist Narrative Paintings, students are expected to broaden their interest in the society in which they were created and adopted.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

《集中講義1日目》仏教説話画の構造

1) 仏典の成立と絵画化

2) 説話的時間—「牢度又闍聖変」

3) 説話的空間—「絵因果経」

4) 説話的現実—「病草紙」

《集中講義2日目》仏教説話画の図像学

5) 破戒の図像—「伴大納言絵巻」

6) 発心の図像—「粉河寺縁起絵巻」

7) 愛執の図像—「華嚴宗祖師絵伝」

8) 病と互惠性の図像—「一遍聖絵」

《集中講義3日目》異空間のパノラマ

9) 善悪業を観察する閻魔

10) 閻魔天曼荼羅から閻魔堂への展開

11) 聖衆来迎寺「六道絵」の構成

12) 儀礼空間としてのめぐりわたる六道

《集中講義4日目》中世文学と絵画

13) 説話・詩歌と九相図

14) 平家物語と六道絵

15) ふりかえり

8. 成績評価方法：

各回講義内容に関するリアクションペーパー 50%

最終レポート 50%

9. 教科書および参考書：

参考図書：講義の中で関連する個所を示すので適宜図書館などで利用していただきたい。

山本聡美『中世仏教絵画の図像誌 経説絵巻・六道絵・九相図』（吉川弘文館、2020年）

山本聡美『闇の日本美術』（ちくま新書、2018年）

山本聡美『九相図をよむ一朽ちてゆく死体の美術史』（KADOKAWA、2015年）

泉武夫・加須屋誠・山本聡美編著『国宝 六道絵』（中央公論美術出版、2007年）

10. 授業時間外学習：上記参考書、またそれ以外にも授業中に関連する図書、論文、また展覧会図録などを示すので、各回のリアクションペーパーや最終レポート作成のために参照していただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM21307, 科目ナンバリング：LIH-ART604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、東大寺大仏と清凉寺釈迦の関係が導く宗教的な意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、先の二者の関係を踏まえた観点から探る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題

2. 北宋美術の諸相1ー開封と杭州

3. 北宋美術の諸相2ー舍利塔地宮の世界

4. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像1

5. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像2

6. 摂関期の信仰と美術1ー浄妙寺と法成寺

7. 摂関期の信仰と美術2ー平等院鳳凰堂

8. 院政期の信仰と美術ー法勝寺と中尊寺

9. 重源の思想と美術1ー東大寺大仏再興

10. 重源の思想と美術2ー別所の造形

11. 東国の生身仏像と「場」

12. 戒律復興と美術1ー貞慶

13. 戒律復興と美術2ー叡尊

14. 華嚴世界の再生ー明恵

15. 春日信仰と美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論V／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23305, 科目ナンバリング：LIH-ART605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

1回目 江戸と浮世絵1ー菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一

2回目 江戸と浮世絵2ー東洲斎写楽と喜多川歌麿一

3回目 江戸と浮世絵3ー葛飾北斎と歌川広重一

4回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明

5回目 武士の絵画1ー鑑戒一

6回目 武士の絵画2ー暢神一

7回目 京都と円山派1ー円山応挙一

8回目 京都と円山派2ー応挙の門人たち一

9回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一

10回目 天下の台所・大坂の絵画

11回目 江戸の絵画1ー18世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)

12回目 江戸の絵画2ー谷文晁の登場と洋風画の隆盛

13回目 伊藤若冲 一その真実を探る

14回目 好古家と考古学の黎明

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画ー中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM13402, 科目ナンバリング：LIH-ART610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術史基礎資料読解

2. Course Title (授業題目) : Reading the historical documents of art history

3. 授業の目的と概要：この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『校刊美術史料寺院篇』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』・『転法輪抄』・『俊乘房重源史料集成』・『西大寺叡尊傳記集成』から造像に関わる願文（または表白）を選び、それを素材としていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will read basic documents deeply related to art. Through the reading, we will find how it relates to the remaining artworks and practice creative reading of documents.

5. 学習の到達目標：基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students acquire the skill to understand basic documents, and try to find the way to use documents creatively in art history research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して授業資料と授業情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）、『貴重古典籍叢刊 6 安居院唱導集上巻』（角川書店）、『国立歴史民俗博物館研究報告』188

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23401, 科目ナンバリング：LIH-ART611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画作品研究

2. Course Title (授業題目) : Training to read information of the Japanese paintings

3. 授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides programs of training to read information on the Japanese paintings in the Edo era.

5. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course aims to improve the students' ability to read information on the Japanese paintings.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクターおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。

1 回目 ガイダンス

2 回目・3 回目 近世絵画

4 回目・5 回目 中近世の仏画

6 回目・7 回目 近世絵画

8 回目・9 回目 中近世の仏画

10 回目・11 回目 近世絵画

12 回目・13 回目 中近世の仏画

14 回目・15 回目 近世絵画

8. 成績評価方法：

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。